

# 令和 3 年度における業務実績報告書

抜 粋

令和 4 年 6 月

公立大学法人和歌山県立医科大学

## 目 次

- 法人の自己評価に対し「2名」の委員が異なる評価をつけた項目（ 2項目）  
・・・・・・・・ P 1
  
- 法人の自己評価に対し「1名」の委員が異なる評価をつけた項目（21項目）  
・・・・・・・・ P 4

# ○ 法人の自己評価に対し「2名」の委員が異なる評価をつけた項目（2項目）

※令和3事業年度 業務実績報告書 18 ページ

## 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-63) (IV-1)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

### (1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価	
大学院教育						
イ	<p>【博士課程・博士後期課程】 博士課程・博士後期課程において、専門的知識や技術を活かし、地域医療や国際社会に貢献できる医療人及び本県の保健医療における指導的役割を担う人材を育成するため、高度先進的な研究内容の指導かつ講座の枠を超えた分野横断的な特別講義を実施するなどの教育を行う。</p>	<p>a 修士課程と共通の医科学研究法概論及び学内外の第一線で活躍する講師による各講座の枠を超えた高度先進的、分野横断的な特別講義を行う。</p> <p>また、大学院入学者の充足率を継続的に100%になるよう、医学研究科委員会等で臨床教室と基礎教室とが連携して大学院生を養成する方法を通じて学内に募集を働きかけていくとともに、海外学生に対して案内するなど、多方面にわたり募集を行っていく。(医学研究科)</p>	<p>共通講義及び学内外の第一線で活躍する講師による特別講義を実施し、高度先進的かつ分野横断的な知識を習得させた。 共通講義の実施回数：18回 特別講義の実施回数：20回 また、大学院の入学志願者の確保について、下記のとおり実施し、募集を図った。</p> <p>・学内 ① 募集要項（博士・修士）を各医局に配付し所属長に依頼 ② 医学研究科委員会等において、直接所属長に募集を依頼</p> <p>・学外 ① 博士課程の入学試験案内を全国の62国公立大学（医学部・歯学部）及び44私立大学に送付 ② 修士課程の試験案内は、県内82病院や10協会（医師会・病院協会・看護協会等）に、県外では近畿の129大学・専門学校等に対して送付 ③ 海外提携校19校に対して試験案内を送付 ④ 英語版大学院HPに試験案内と教員からの募集メッセージ等を掲載</p>	III	II	II

			<p>上記に加え、海外在住者の受験を促すことを目的に、Zoom等を活用した遠隔受験の令和5年度入学試験（令和4年度実施）からの導入を大学院入試委員会において検討し、医学研究科委員会において承認された。</p> <p>(修士課程)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定員</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>入学者数</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>(博士課程)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定員</td> <td>42</td> <td>42</td> <td>42</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td>31</td> <td>44</td> <td>23</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>入学者数</td> <td>28</td> <td>45</td> <td>23</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和2年度入学者のうち1名はR1.10月合格者</p>		元年度	2年度	3年度	4年度	定員	14	14	14	14	受験者数	10	8	7	3	入学者数	10	7	7	3		元年度	2年度	3年度	4年度	定員	42	42	42	42	受験者数	31	44	23	25	入学者数	28	45	23	25			
	元年度	2年度	3年度	4年度																																										
定員	14	14	14	14																																										
受験者数	10	8	7	3																																										
入学者数	10	7	7	3																																										
	元年度	2年度	3年度	4年度																																										
定員	42	42	42	42																																										
受験者数	31	44	23	25																																										
入学者数	28	45	23	25																																										

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-30) (IV-1)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-) (IV-)】

(3) 病院運営に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
キ 【医薬材料費】 医療材料、医薬品等の購入状況や使用状況を分析し、経費の抑制を図る。	価格交渉や医療材料の置き換え等により、経費の抑制を図る。	<p>医薬品については、年間値引き目標値を設定することにより購入経費の削減を図るとともに、全国の大学病院等の購入実績を参考に価格交渉を実施した。また、医療材料については、医薬品と同様に他の病院の購入実績を参考にした価格交渉を実施した。さらに、後発医薬品の導入に取り組むことにより、経費の抑制を図った。これらの価格交渉等により、約1億7,400万円の削減となった。</p> <p>医療用材料検討委員会の開催数 6回 薬事委員会の開催数 8回 医療用材料比率 令和3年度 41.2% (2年度 40.1%) 後発医薬品数量シェア 令和3年度 80.8%</p> <p style="text-align: right;">(経理課)</p>	III	IV  IV	

# ○ 法人の自己評価に対し「1名」の委員が異なる評価をつけた項目（1項目）

※令和3事業年度 業務実績報告書8ページ

## 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	自己評価	【S- <b>A</b> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-63) (IV-1)】
	委員会評価	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

### (1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
学部教育						
ア	<b>【倫理等のマインド教育】</b> カリキュラムポリシーに則り、他学部との多職種連携教育、ケアマインド教育及び早期からの参加型実習を通して、社会人として必要な教養を涵養し、医療人として必要な倫理観、共感的態度、コミュニケーション能力及	a 1年次から患者及び家族と触れ合い、精神的・肉体的弱者の心に共感できる能力を育成するとともに、能動的に体験できる場を提供し、体験実習を通してケアマインド、コミュニケーション能力を向上させる取組を継続する。(医学部)	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度においては、院外の関係施設への実習は中止したが、1年次においては、医学部・保健看護学部・薬学部の3学部合同講義として、患者及び患者家族の会から直接話を聞き、両学部の学生が話し合うケアマインド教育を遠隔形式で行い、障害や疾病を有する方々の精神的、社会的背景を理解する能力を向上させた。  ケアマインド教育 対象：1年生（3学部合同）	III	IV	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-63) (IV-1)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価	
オ	【国家試験】 新卒者の国家試験合格率を向上させるため、学習支援を充実させるほか、医学部において、学生に対する卒業試験後の個別支援を行うとともに、卒業試験問題の検証・改善を図り、全国上位の合格率を目指す。	b 高い国家試験合格率を維持するため、担任及びゼミ担当教員を中心とした学習支援を行う。(保健看護学部)	看護師、保健師ともに引き続き合格率100%を目指し、学年担任及びゼミ担当教員を中心として学習支援を行った。 看護師模擬試験 4回 保健師模擬試験 3回	III	IV	
カ	【多職種連携教育】 チーム医療を円滑に行う能力を育成するため、3学部の共通講義、準備教育、実習における臨床参加型チーム医療など、多職種連携教育の充実を図る。	a 保健看護学部、医学部及び薬学部との共通講義や多職種間教育を充実し、臨床実習においてチーム医療に参加できる体制を整えることで、卒業後にチーム医療に円滑に移行できるようにする取組を継続する。(医学部)	新型コロナウイルス感染症の影響により、関係施設への実習は中止したが、患者及び患者家族の会から直接話を聞き、3学部の学生が話し合うケアマインド教育を遠隔形式で実施した。 また、医療安全の推進や人権、人の死に関する講義を実施し、医師として必要な能力を育成した。	III	IV	
		b 多職種間教育を充実し、医学部と薬学部との共通講義を進める。(保健看護学部)	1年次に「医療入門：ケアマインド教育」として医学部・保健看護学部・薬学部の共通講義を行い、グループワークを通して意見の違いなどについて学ばせた。 3学部の学生が1つのテーマについて議論することで、将来	III	IV	

		部)	のチーム医療の素地を作ることがねらいである。			
		c 3学部の共通講義等により多職種連携、チーム医療の重要性の理解・修得を図る。(薬学部)	3学部合同講義のケア・マインド教育では、3学部の教員がそれぞれテーマを設定して授業を行い、医師の立場から、看護師の立場から、薬剤師の立場からの講義を受けることで、多職種連携やチーム医療についても理解できる教育を行った。	III	IV	
数値	新卒者の医師国家試験合格率 96%以上	96.0%	令和3年度実績：96.9% (全国新卒合格率 95.0%) ※94.8% (令和2年度) 〈関連事項 オa〉			
	新卒者の看護師国家試験合格率 100%	100%	令和3年度実績：100% (全国大学合格率：96.6%) ※100% (令和2年度) 〈関連事項 オb〉			
	新卒者の保健師国家試験合格率 全員合格	全員合格	令和3年度実績：95.8% (全国大学合格率：91.4%) ※100% (令和2年度) 〈関連事項 オb〉			

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-63) (IV-1)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
専攻科教育						
ア	【人材育成】 助産師として必要な倫理観及び専門的知識・技術の修得という観点から、助産師課程修了時の到達度を検証し、指導方法・内容の改善を図る。	助産師として問題解決能力を有する人材を育成するため、判定会議による助産師課程修了時の到達度を検証するとともに、それに基づく改善策を検討する。	3か月の実習期間中、月末ごとに担当教員が学生と面談し、実習到達度について項目ごとに評価を行った。そのうえで、学生が到達できていない項目と課題を把握し、取り組めるよう調整した。また、月1回は、学生間で実習中の学びなどを共有できるよう、全員でなくとも大学へ帰校できる日を設けた。 なお、2月に判定会議を行った。  〈助産学専攻科〉	III	IV	
数値	新卒者の助産師国家試験合格率 全員合格	全員合格	令和3年度実績：100% (令和2年度実績：100%)  〈関連事項 ア〉			

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-63) (IV-1)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
ウ	<p><b>【図書館機能】</b> 医療系総合大学図書館として、教育のグローバル化・情報のオンライン化に対応した学習・研究・教育・診療を支援するために、蔵書の充実と図書館機能の強化を図る。</p>	<p>機関リポジトリの構築運用の事業計画を策定する。</p>	<p>機関リポジトリ収録コンテンツを保有する学部事務室や研究推進課等関連部署に向けた説明会を開催し、設置要項や運用指針等の整備やシステム整備に係る事業計画案について説明し、構築基盤に係る協力体制を整え事業推進を図った。 〈図書館〉</p>	III	IV	
数値	<p>単行書年間購入冊数 540 冊</p>	540 冊	<p>1,033 冊 適切かつ最新の医学関連図書を購入し、蔵書の充実が図れた。 〈関連事項 ウ〉</p>			

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-1) (III-10) (IV-)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-) (IV-)】

(1) 研究水準及び成果等に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価																
ウ	<p>【学会発表等】</p> <p>学会での発表を通じて学外から研究活動の評価を受け、研究活動の質の向上を図る。</p>	<p>研究活動の活性化を図り、国内外の学会での発表を促進する。</p> <p>優れた学術研究を行っている研究者に助成を行い、研究活動の活性化を図るとともに、助成を受けた研究成果を発表させるため成果発表会及びポスター掲示を毎年開催(3月予定)することで、学会発表の促進を図っている。</p> <p>令和3年度は3月に、令和元年に採択された特定研究助成プロジェクト5件の成果発表会とポスター発表、若手研究支援助成13件のポスター発表を実施した。</p> <p>成果発表会では外部審査員7名、学内審査員4名にコメントをいただき研究者にフィードバックし、今後の研究の発展に繋げている。</p> <p>○特定研究助成プロジェクト採択数(医師主導治験を除く)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応募数</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>採択数</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>助成額</td> <td>19,990千円</td> <td>24,975千円</td> <td>23,967千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>[令和3年度採択事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>難治性のかゆみにおける神経伝達病態の全容解明 (薬学部 生体機能解析学研究室 准教授 木口 倫一)</li> <li>単一遺伝子変異により生じる自己炎症病態の解明 (医学部 法医学講座 教授 近藤 稔和)</li> <li>補体関連疾患の分子メカニズム解明から補体制御による治療と診断へ</li> </ul>	年度	R1年度	R2年度	R3年度	応募数	8	10	8	採択数	4	5	6	助成額	19,990千円	24,975千円	23,967千円	III	IV	
年度	R1年度	R2年度	R3年度																		
応募数	8	10	8																		
採択数	4	5	6																		
助成額	19,990千円	24,975千円	23,967千円																		

			<p>(医学部 分子遺伝学講座 講師 日高 義彦)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人工知能 (AI) を利用したスマートグラス型医療安全システムの開発と臨床現場における有用性の検討 (附属病院 医療情報部 准教授 西川 彰則)</li> <li>カテリシジンおよび自然免疫系に着目した、内蔵脂肪心血管連関における心血管発症・進展分子機構の解明 (医学部 内科学第四講座 教授 田中 篤)</li> <li>細胞内 Ca<sup>2+</sup>シグナルによる全身代謝調節の総合的理解 (医学部 薬理学講座 教授 西谷 友重)</li> </ul> <p>○若手研究支援助成</p> <p>39 歳以下の研究者で、令和 2 年度の科研費に応募し採択には至らなかったが A 評価を受けた者にさらなる研究の発展を支援すべく助成。</p> <table border="1" data-bbox="996 646 1626 782"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R 1 年度</th> <th>R 2 年度</th> <th>R 3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応募数</td> <td>13</td> <td>18</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>採択数</td> <td>13</td> <td>18</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>助成額</td> <td>10, 250 千円</td> <td>10, 440 千円</td> <td>8, 992 千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>[令和 3 年度採択事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな液体塞栓物質 NBCA-Lipiodol-Iodine 混和液 (NLI) の開発 (放射線医学講座 学内助教 福田 耕大)</li> <li>莢膜ワクチンによる無莢膜型肺炎球菌の選択と伝播機序の解明 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 学内助教 木下 哲也)</li> <li>テトラスパニン CD81 を介した甲状腺未分化癌の新規分子標的治療の開発 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 学内助教 木村 貴任)</li> <li>トランスクリプトームを用いた小細胞肺癌における免疫治療効果予測 AI モデルの開発 (内科学第三講座 助教 藤本 大智)</li> <li>がん性痛およびがんの増殖を制御する末梢神経の解明 (麻酔学講座 助教 吉田 朱里)</li> <li>hPIV2 の V 蛋白による 14-3-3 ε を介した免疫応答回避機構の解明 (微生物学講座 助教 坂 直樹)</li> <li>難治性神経変性疾患の封入体における直鎖状ポリユビキ</li> </ul>	年度	R 1 年度	R 2 年度	R 3 年度	応募数	13	18	9	採択数	13	18	9	助成額	10, 250 千円	10, 440 千円	8, 992 千円			
年度	R 1 年度	R 2 年度	R 3 年度																			
応募数	13	18	9																			
採択数	13	18	9																			
助成額	10, 250 千円	10, 440 千円	8, 992 千円																			

			<p>チンの存在と病態への関与の解明  (脳神経内科学講座 助教 中山 宜昭)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• CEACAM1 発現誘導による胃癌腹膜播種治療を目指した基礎的臨床的研究  (外科学第二講座 学内助教 竹内 昭博)</li> <li>• TRPM2 分子機構の解明に立脚した滲出型加齢黄斑変性の病態解明と新規治療薬の開発  (眼科学講座 助教 西 晃佑)</li> </ul> <p style="text-align: right;">〈研究推進課〉</p>			
--	--	--	--	--	--	--

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A- <span style="border: 1px solid black;">B</span> -C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II-1) (III-10) (IV- )】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
エ	<p><b>【組織横断型の研究】</b> がんや認知症など本学が担うべき研究分野における研究を推進するため、学外からの研究者の受入を図るほか、医学部、薬学部、保健看護学部が連携する組織横断型のプロジェクトや次世代を担う若手研究者への支援策を強化する。</p>	<p>医学部、薬学部、保健看護学部の枠や領域の枠を超えて連携する組織横断型のプロジェクト研究等を対象に助成を行い、次世代を担う若手研究者への支援を実施する。</p>	<p>組織横断型特定研究助成プロジェクトとして、学部、講座枠を超えた研究6件に助成し、うち3件は大型の外部資金獲得に繋がるように研究期間を2年として採択した。 また、優れた学術研究を行っている若手研究者に対しさらなる研究の発展を支援するため、若手研究支援助成を9件に対し行った。 (助成内容については、P32～P33 参照)  (研究推進課)</p>	III	IV	
カ	<p><b>【外部資金の獲得】</b> 科学研究費助成事業等を含む競争的資金獲得のため、本学の研究者の応募を促進するとともにノウハウの提供による獲得支援を行う。また、企業との共同研究、受託研究及び治験等を推進・支援し、外部資金の獲得を図る。</p>	<p>a 科学研究費等の獲得件数、獲得額の増加に向けて、引き続き、How to get 科研費セミナーや若手研究者向け科研費セミナーの開催、科学研究費応募書類の作成支援を実施するとともに、特に科学研究費が採択されなかった研究者に対して研究計画調書の作成支援を行う。</p>	<p>各学部において「How to get 科研費セミナー」と「若手研究者向け科研費セミナー」を開催し、科研費応募に係る事務手続の説明とともに、科研費獲得のポイントや研究計画調書の書き方と獲得戦略について、研究活動活性化委員会委員とURAが指導を行った。 加えて、科研費申請経験の浅い研究者支援として、研究活動活性化委員とURAによる申請内容の2重チェックを実施した。(委員・URA：20件、URA：35件) また、URA作成の研究計画調書作成要領(若手研究/基盤研究)を学内ホームページで周知している。  (研究推進課)</p>	III	II	

数値	競争的資金への教員応募率 100%（令和5年度）	94%以上	84% （令和3年度応募（令和4年度分）） 〈関連事項 オ・カ a b〉			
----	-----------------------------	-------	--	--	--	--

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-30) (IV-1)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-) (IV-)】

(1) 診療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価												
附属病院本院																	
オ	<p>【医療サービス】</p> <p>病院医療水準の向上を図るとともに、安心して快適な環境で医療を受けられるよう、患者満足度調査に基づくサービスの向上や、患者相談窓口の更なる体制充実を図る。また、十分な説明と同意のもとに、安全で心のこもった医療を行う。</p>	<p>b 患者相談窓口では、多職種協働による切れ目ないワンストップサービスの相談体制を整え、患者・家族が安心してそれぞれの目的に進めるように支援を行う。また、入院センターでは、入院前からの支援を14診療科から24診療科の全科に拡大し、PFM体制の充実を図り、入院センターから地域連携部門・各病棟への継続的な支援ができる体制整備を行う。</p> <p>患者相談窓口でのR3年度の相談件数は、1,511件で内容は多岐にわたっている。医療費・社会保障に関する相談が669件で、全体相談件数の44%をしめる。相談内容に合わせ、看護職員とMSWで対応し、相談内容によっては適切な部署へつないでいる。切れ目のないワンストップサービスは実践できている。相談後のアンケートは、相談内容によりアンケート協力を依頼することが難しいが、窓口や窓口以外でも記入できるように準備し、R2年度に比べ、106件と増えている。内容はほとんどが感謝の言葉であった。</p> <p>入院センターでは、R3年9月から予定通り小児科・産科・緩和ケアを除く24診療科に拡大し、さらにR4年3月入院前リスク評価を実施している。R3年度の基本情報聴取数は9,848人でR2年度に比べ2,471人増加している。窓口での問診により、地域連携部門や認知症疾患医療センターの介入を早期に行っている。また、入院前の情報を入院先の病棟に繋ぐことで、より安全で安心できる入院生活や退院支援が行えるようになってきている。また、PFMについては、病院の取り組みとして準備ワーキングで継続的に検討をすすめ、R4年2月からは麻酔科の協力を得て、泌尿器科を対象に周術期外来を開設した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>基本情報聴取数</th> <th>対応診療科数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R元年</td> <td>4,815</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>R2年</td> <td>7,377</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>R3年</td> <td>9,848</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">〈患者支援センター〉</p>		基本情報聴取数	対応診療科数	R元年	4,815	12	R2年	7,377	14	R3年	9,848	24	III	IV	
	基本情報聴取数	対応診療科数															
R元年	4,815	12															
R2年	7,377	14															
R3年	9,848	24															

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I - ) (II - ) (III-30) (IV-1)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I - ) (II - ) (III - ) (IV - )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己評価	委員評価	委員会評価	
紀北分院						
ア	<p>【紀北分院が提供する医療】</p> <p>担当教授及び指導医を配置し、総合診療医を育成するための体制の充実を図るなど、様々な疾患を抱える患者の多い超高齢社会に対応した質の高い医療を提供する。</p>	<p>b 医療安全及び院内感染対策を推進するため、医療安全推進委員会及び感染防止対策委員会を中心に医療従事者の安全意識と感染防止の意識を向上させる。</p>	<p>eラーニングを活用し、全職員を対象にした医療安全及び感染対策の研修会を開催した。新型コロナウイルス感染症感染拡大に留意した医療安全と感染防止に関する組織風土の醸成に関する意識向上につなげることができた。</p> <p>【医療安全研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催回数：5回（令和2年度4回）</li> <li>・参加者数：612名（令和2年度528名）</li> <li>・年2回以上出席達成率：100%（令和2年度：100%）</li> <li>・研修内容 医療安全の基本（9月）医療安全の多様性を知る（10月）、マインドフルネスの認識（11月）、前向きな出来事の捉え方（12月）、ポジティブ心理（12月）</li> </ul> <p>【感染対策研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催数：5回（令和2年度8回）</li> <li>・参加者数：496名（令和2年度426名）</li> <li>・年2回以上出席達成率：100%（令和2年度97.4%）</li> <li>・研修内容 免疫を高める運動について（5月）、院内PCR/抗原検査について（7月）、N95フィットテスト+空気感染対策について（7～8月）、新型コロナウイルス感染症（9月）手指衛生について（10月）〈紀北分院〉</li> </ul>	III	IV	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-30) (IV-1)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(2) 教育機能等の充実に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
<p>ア 【卒後の教育・研修】</p> <p>専門診療能力及び総合診療能力を有する医師を育成するため、専門医制度も踏まえ、臨床研修協力病院や臨床研修協力施設と連携し、卒後臨床研修プログラムの充実に努め、臨床研修医の受入に取り組むとともに、専攻医の専門教育の充実を図る。</p> <p>また、時代や地域のニーズに応じた知識や実践能力を養うため、看護の質の向上、学生の学習環境の整備、指導者の育成、学生及び看護職員のキャリア開発等を目標として、合同学習会、看護部継続教育研修及び実習に係る説明会を行うなど、保健看護学部と看護部の連携を強化</p>	<p>a 基礎医学に意欲がある学生を対象に、臨床研修と基礎研究の両立を可能とする基礎研究医プログラムの募集を行い、研修医の確保を図る。</p> <p>和歌山研修ネットワークを利用した研修医の受入に積極的に取り組むとともに、研修初期から患者急変時に対応できる能力の習得を支援するため、県内で新規採用された臨床研修医に対する心肺蘇生講習会を開催するなど、専門診療能力及び総合診療能力を有する医師を育成するための講習会を開催する。</p> <p>また、手術手技の経験と解剖学的知識の再確認を目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎研究医プログラムについて、令和4年採用募集を行うとともに令和5年度採用のために改定を行った。</li> <li>院内のみならず、和歌山研修ネットワーク参加病院などへ1カ月単位で研修先を選べる自由度の高い研修プログラムを、医学部5年生対象合同説明会などで積極的にアピールしながら、多くの臨床研修医を受入れている。</li> <li>県内新規採用研修医を対象に、AHA-BLSヘルスケアプロバイダーコースを新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため8回に分け開催し、91名が受講した。(9/24、10/7、11/11、12/24)</li> <li>内科専攻医、研修医の希望者を対象に、JMECC(内科救急・ICLS)講習会を開催し、30名が受講した。(4/10、7/10、9/18、10/30、11/21)</li> <li>遺体を使用した外科解剖・手術手技研修については、日本外科学会の定めるガイドラインに基づき、令和3年6月に本学における実施方針を策定した。各講座からの実施申請を受け付け、7件の研修を実施した。</li> <li>専門研修プログラム合同説明会 e レジフェアオンライン Weekに参加し、研修医4名が訪問した。(6/18、19) (地域医療支援センター)</li> </ul>	III	IV	

	<p>していく。</p>	<p>として、外科系専攻医等を対象とした遺体を使用した外科解剖・手術手技研修を実施する。</p> <p>大手リクルート企業が主催する、全国規模の初期研修医を対象とした臨床研修医合同説明会に参加するなど、本学の専門研修プログラムについて積極的な広報を行うことにより、専攻医の確保に努める。</p>				
--	--------------	---	--	--	--	--

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-30) (IV-1)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-) (IV-)】

(3) 病院運営に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価															
<p>カ 【診療報酬制度】</p> <p>医師等と情報を共有することにより、診療報酬請求内容の精度を高める。</p> <p>また、患者支援センター及び請求事務担当等と連携し未収金の早期回収に取り組む。</p>	<p>b 診療報酬未収金について、職員により発生の防止や早期回収に努めるとともに、回収困難な未収金については、弁護士法人に委託し、未収金残高の減少に努める。</p>	<p>職員により、電話督促、督促状の発送、窓口・病棟での面談、自宅への訪問督促など粘り強く回収に取り組むとともに、患者支援センターなど院内の各関係部署と連携を図り、未収金の発生防止、早期回収に努めた。</p> <p>回収困難な未収金については弁護士法人に委託するとともに、回収不能案件については内容を精査したうえで貸倒など適切な処理を行い、未収金残高の減少を図った。</p> <p>診療報酬未収金のうち15,073千円を弁護士法人へ委託し、令和3年度中に1,684千円を回収、3,777千円を貸倒損失処理した。各年度末の未収金の推移は下記のとおり。</p> <p>未収金の推移 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R3-R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>未収金</td> <td>82,720</td> <td>85,111</td> <td>74,835</td> <td>▲10,276</td> </tr> <tr> <td>回収金額</td> <td>44,353</td> <td>37,393</td> <td>61,852</td> <td>24,459</td> </tr> </tbody> </table> <p>(クレジットカード支払、自賠責保険請求、定時請求を除く) (医事課)</p>	年度	R元年度	R2年度	R3年度	R3-R2	未収金	82,720	85,111	74,835	▲10,276	回収金額	44,353	37,393	61,852	24,459	III	IV	
年度	R元年度	R2年度	R3年度	R3-R2																
未収金	82,720	85,111	74,835	▲10,276																
回収金額	44,353	37,393	61,852	24,459																

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

4 国際化に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-6) (IV-)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-) (IV-)】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
ウ	<p>【学术交流・学生交流】 海外の大学、研究所、病院等との学术交流、学生交流を推進するとともに一層の充実を図る。</p> <p>b 若手研究者が代表者として主催する国際シンポジウム等の開催に対して支援を行う。</p>	<p>令和3年度は、次の4件の国際シンポジウムの開催に対し助成を決定した。</p> <p>①日仏共同糖鎖病態生理学 和歌山県立医科大学国際シンポジウム 2021/R3. 10. 4-6 予定/ 生化学講座 講師 西辻和親/1,360千円</p> <p>②膵癌治療の最前線-和歌山県立医科大学国際シンポジウム/R3. 12. 16-17 予定/ 外科学第二講座 講師 廣野誠子/560千円</p> <p>③和歌山眼・角膜神経シンポジウム/令和4. 3. 26-27 予定/ 眼科学講座 准教授 住岡孝吉/1,470千円</p> <p>④和歌山国際法医学シンポジウム/R3. 8. 21-22 予定/ 法医学講座 准教授 石田裕子/1,610千円</p> <p>※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、③④は開催を中止したが、①は日程を変更しWebで、②は国外の研究者をWeb参加として開催した。</p> <p>〈研究推進課〉</p>	III	IV	

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-)(II-)(III-5)(IV-)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-)(II-)(III-)(IV-)】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価										
<p>ア</p> <p><b>【優秀な人材の確保】</b> 質の高い最先端の研究や高度先進医療の実績を上げるとともに、常に教育プログラムの検証・改善を行い、教育水準の向上に努める。さらに、多職種間連携のより一層の充実・強化を図るなど、医・薬・看の医療系総合大学としての魅力を最大限に高め、県内外に広く発信することで、多様で資質の高い人材を確保する。</p> <p>また、入学した学生に対し、地域医療への理解を促すため、地域医療学講座や地域での早期体験型実習を行うとともに、地域の保健医療課題を解決するための研究への参画を促進することにより、地域医療に貢献する高い</p>	<p>本学の教育・研究・診療面の各水準を高めるとともに、大学説明会、高校との情報交換会や高校訪問などの活動を通じ、本学の魅力をPRすることにより、優秀な人材の確保に繋げる。</p> <p>また、医学部においては、県内の施設における体験実習等を通じて地域医療を理解する教育を実践する。</p> <p>保健看護学部においては、地域での実習や、複数地域において実施しているコホート研究を継続実施し、学生の参画を促して、地域医療に対する関心を高める教育を行う。</p> <p>薬学部においては、優秀な人材を確保するため積極的にPRを実施する。また、他県から入学した学生に和歌山での</p>	<p>令和3年7月9日(金)に開催された和歌山県高等学校進路指導研究会第2回進学指導研究会(高校の進路指導部長等46校49名参加)に出席し、また、令和3年11月29日(月)に県教育委員会及び県高等学校長会との懇談会、令和3年11月30日(火)に県私立中学高等学校協会との懇談会を開催し意見交換を行った。</p> <p>8~10月に県内9校の高校を教職員が訪問し、受験生を対象に本学の教育方針等についての説明を行い、PR活動を行った。</p> <p>オープンキャンパスについては、新型コロナウイルス感染症防止のため、従来の会場型に代わり動画を令和3年9月21日(火)に公開した。(令和4年4月11日時点の再生回数はpart1~3合計4,048回)</p> <p style="text-align: right;">〈医学部〉</p> <p>保健看護学部説明会(令和3年7月9日)、県高等学校校長会との懇談会(令和3年11月29日)及び県私立中学高等学校協会との懇談会(令和3年11月30日)を開催し、本学部の魅力をPRしている。</p> <p>地域が行っているコホート研究に、学生が参画している。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>高野町富貴地区</td> <td style="text-align: right;">2名</td> </tr> <tr> <td>高野町高野山地区</td> <td style="text-align: right;">10名</td> </tr> <tr> <td>北山村</td> <td style="text-align: right;">8名</td> </tr> <tr> <td>妙寺中学校</td> <td style="text-align: right;">8名</td> </tr> <tr> <td>みなべ町健診</td> <td style="text-align: right;">57名(5日間)</td> </tr> </table>	高野町富貴地区	2名	高野町高野山地区	10名	北山村	8名	妙寺中学校	8名	みなべ町健診	57名(5日間)	III	IV	
高野町富貴地区	2名														
高野町高野山地区	10名														
北山村	8名														
妙寺中学校	8名														
みなべ町健診	57名(5日間)														

	志を有した人材を育成する。	就職を選択肢の一つに加えてもらえるような施策を実施する。	<p style="text-align: right;">〈保健看護学部〉</p> <p>県内高校の進路指導部長等を対象とした大学説明会を3学部合同で令和3年7月9日（金）に開催し、45校49名の参加があった。また、令和3年11月29日（月）に県教育委員会及び県高等学校長会との懇談会、令和3年11月30日（火）に県私立中学高等学校協会との懇談会を行った。</p> <p>薬学部の魅力を紹介するために薬学部紹介動画を作成し、令和3年8月30日（火）に大学HPに掲載（令和4年4月11日時点での再生回数5,246回）した。また、令和3年9月12日（日）に実施したオープンキャンパスでは薬学部紹介動画とオンラインによる在校生との懇談会を行った。（参加者59名）</p> <p>高校を教職員が訪問し、受験生を対象に薬学部の概要、カリキュラムの説明を行った。（県内6校、参加者152名）</p> <p>早期体験実習による県内薬局等での実習により、県内での就職へのイメージを具体化させた。</p> <p style="text-align: right;">〈薬学部〉</p>			
エ	<p>【県民医療枠・地域医療枠のキャリア形成】</p> <p>県民医療枠及び地域医療枠で入学した学生が地域医療の魅力や特性を理解し、地域医療に従事する医師の役割及び責任についての認識を深めるため、キャリア形成支援に資する研修等を実施する。</p> <p>また、専門医制度に基づく診療科別に作成したプログラムについて、継続的に見直しを行い、臨床研修医の県内定着に取り組む。</p>	<p>県民医療枠・地域医療枠で入学した学生に対して、地域医療の魅力や特性を学ぶ機会として、夏季休暇を利用し、県内外の医療機関等で研修を実施する。</p> <p>卒後3年目～5年目の若手の地域医療枠医師がへき地拠点病院で勤務する際、卒後8・9年目の地域医療枠医師が指導医としての役割を果たせるように、指導体制を確保するとともに、専攻医取得を見据えたキャリア形成の支援を行う。</p> <p>県民医療枠・地域医療枠における専門医取得を考慮したキャリア形成プログラム冊子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民医療枠・地域医療枠で入学した医学部1年生に対して、地域枠の制度説明及びキャリア形成支援について個別面談を令和3年7月に実施した。</li> <li>・同枠の医学部6年生及び卒後2年目の研修医に対して、キャリア形成に係る面談を実施した。（6年生：6月・7月、研修医2年目：9月・10月）</li> <li>・県の医師派遣計画に基づき、卒後8年目の地域医療枠医師が、若手の地域医療枠医師を指導できるよう、本人のキャリア形成にも配慮した医師配置を行った。</li> <li>・令和3年7月～8月に夏季実習を和歌山県内の保健所やへき地拠点病院・診療所において実施し、本学医学部地域医療枠1～5年生37名が参加した。</li> <li>また、本学医学部県民医療枠4年生は、和歌山県内の地域中核病院の病院見学を実施し、24名が参加した。</li> <li>・地域医療枠・県民医療枠のキャリア形成を支援し、入局先の参考とするため、院内の全診療科における地域医療枠・県民医療枠の新専門医制度での研修、学位取得を含めたローテーション例等を記載した「令和3年和歌山県立医科大学キャリア形成プログラム」を作成した。</li> <li>・地域医療枠医師は、へき地医療拠点病院等で勤務する際、</li> </ul>	III	IV	

		を作成し、臨床研修医の県内定着に取り組む。	特定の診療科（産科、精神科）を除き、原則、内科・総合診療での診療に従事することが義務づけられているが、その期間、大学等で自身の専門分野を学ぶことができるように週1日の研修日を設けている。 〈地域医療支援センター〉			
数値	採用臨床研修医の研修修了後県内定着率 修了者数の 89.1%（令和5年度）	87.3%	当院の初期臨床研修医2年目62名（※1名延長者除く） 内、3年目県内で後期研修54名 3年目県外で後期研修8名 県内定着率 87.1% （令和2年度 87.8%） 〈関連事項 エ〉			

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-12) (IV- )】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
イ 【医療提供体制の充実】 救急医療、小児・周産期医療について、基幹病院としての機能を維持強化するとともに、へき地医療に従事する医師確保対策に取り組むことにより、県内の医療提供体制の充実に寄与する。	a 県内の救急病院をはじめとする他の医療機関及び消防機関との連携を深める。 汎用画像診断装置用プログラム「Join」を活用した遠隔救急支援システムを運用し、3次救急医療機関である本院と公立の2次救急医療機関間で救急患者のCT画像等を事前共有することで、県内の救急医療提供体制を強化する。 県内唯一の総合周産期母子医療センターとして、分娩リスクの高い妊婦や新生児に対して、高度で専門的な治療を行う。	ドクターヘリ搬送について、小規模症例検討会を開催し、地域の特性に応じてヘリを迅速に要請できるよう消防隊員と情報を共有した。 【ドクヘリ出動件数】 平成30年度440回、令和元年度488回 令和2年度472回、令和3年度514回  県内唯一の総合周産期母子医療センターとして、新生児搬送用ドクターカーにより分娩医療機関からの緊急の搬送依頼に対して24時間体制で対応した。  合併症妊娠に対しては、関連科と共同で厳密な管理を行っている。分娩時に大量の出血が予測されるような場合には、あらかじめ、自己血貯血を積極的に行うとともに、放射線科と協力してIVR(画像下診断)での止血を目指す、またそれ以上の産科危機的出血に対しては子宮全摘により対応を行っている。 先天性疾患を持つ新生児に対し関連科と連携して、胎児期からの管理と分娩様式の決定、家族への説明及び新生児期に必要な手術を行っている。さらに超低出生体重児については厳格な呼吸及び循環管理を行い、予後の改善を目指している。  〈医事課〉 Joinについては、令和元年10月から医師のモバイル端末	Ⅲ	Ⅳ	

			での活用を開始し、現在は 59 台の端末で運用している。令和 3 年度の利用実績は 198 件となり、令和 2 年度の利用実績 127 件よりも増加した。 〈地域医療支援センター〉			
--	--	--	---	--	--	--

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

4 地域の活性化に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-4) (IV-)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-) (IV-)】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価	
ア	<p>【研究成果の情報提供】</p> <p>県民及び地域医療関係者に対して継続的に医学、薬学及び保健看護学の最新の研究成果等の情報を提供する。</p>	<p>県民向けの「最新の医学・医療カンファランス」及び地域医療関係者向けの「臨床・病理カンファランス」を対面またはオンラインにより継続的に実施する。また、参加者の増加に向け、開催方法及び周知方法を工夫する。</p>	<p>市民公開講座「最新の医学・医療カンファランス」をオンラインで開催。新型コロナウイルス感染症防止や、健康管理の重要性などのテーマで講演を動画撮影し本学 YouTube チャンネルに掲載。県広報誌(県民の友)や民間企業が提供するアプリを通じ周知を行った。</p> <p>開催回数：11回 総視聴回数：4,716回</p> <p>また、「COVID-19 の1例」をテーマに地域医療関係者向けの「臨床・病理カンファランス」を2月にオンラインで開催した。</p> <p>受講者数：62名 うち研修医 51名</p> <p style="text-align: right;">〈総務課〉</p>	III	IV	
数値	市民公開講座実施回数 9回 (令和5年度)	9回	最新の医学・医療カンファランスの実施回数 11回 〈関連事項 ア〉			

第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

2 人事の適正化・人材育成等に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-6) (IV- )】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(3) 労働環境の向上に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価	
ア	<p><b>【職場環境の整備】</b></p> <p>裁量労働制の導入などにより柔軟な働き方を支援するとともに、院内保育園の利用促進や短時間勤務制度の活用により、職員の子育てや介護への支援、女性職員へのキャリア継続支援を行う。</p> <p>また、各職場へのヒアリングの実施を踏まえ、組織横断的な検討の場を設定することで、年次有給休暇の取得促進や時間外労働の縮減に取り組む。</p>	<p>教員の一部を対象とした専門業務型裁量労働制の導入に向けた協議を行う。</p> <p>各職場へのヒアリングの実施を踏まえ、各職種の代表者を構成員とする検討会を設置し、年次有給休暇の取得促進や時間外労働の縮減に取り組むほか、職員の出退勤管理システムを活用した労働時間の記録・分析により、労働時間の縮減に取り組む。</p>	<p>裁量労働制については、教育及び研究に携わっている一部の教員を対象に、試行的に実施している。</p> <p>また、年次有給休暇の取得促進や時間外労働の縮減については、各職種の代表者を構成員とする所属長会や所属長ヒアリングなどを通じて働きかけを行った。</p> <p>なお、医師の時間外労働時間の短縮を目的とした医師の働き方改革を進めるため、学内関係機関で構成する「医師等職務環境改善検討委員会」による検討を行うとともに、令和3年11月から12月にかけて本学の医師全員を対象に医師の勤務実態把握のための調査を行った。</p> <p style="text-align: right;">〈総務課〉</p>	III	II	
数値	<p>男性の育児休業取得率 13.0% (令和5年度)</p>	<p>3.0%</p>	<p>令和3年度 5.8%</p> <p>妊娠、出産を申し出た者に対し、育児休業制度に関する周知と取得意向を確認していくとともに、男性の育児休業を取得した事例を収集し、情報提供していくことで、取得率の向上を図っていく。</p> <p style="text-align: right;">〈関連事項 ア〉</p>			

第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

3 経費の抑制に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-3) (IV-)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-) (II-) (III-) (IV-)】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
イ	<p><b>【経費の抑制】</b> 財務状況や中期的な収支推計、月次決算やそれに基づく決算見通し等を的確に分析するとともに、優先度の高い業務への重点的な経費配分や教職員の定数管理等を行うことにより、教育、研究、診療の質の向上と経費抑制の両立を図る。</p>	<p>a 予算編成にあたり「経営改善計画」にもとづく人件費を含む経費の抑制策を着実に反映するとともに、既存事業の見直しにより予算配分の重点化・効率化を図る。月次決算や中間決算、年次決算見込み等の分析により、経費抑制に係る取組の進捗管理を行う。</p>	<p>前年度に引き続き、「経営改善計画」に基づき医薬材料の価格交渉等による経費の抑制に取り組み、月次決算や中間決算、年次決算等の分析により、進捗管理や効果検証を行った。 また、予算編成において経費抑制に係る取組の実績や今後の計画を着実に反映し、これに基づく収支を踏まえて新規事業、既存事業の内容精査、優先順位に基づく予算配分の重点化・効率化を行った。また、外来診療（令和2年度：86.2億円→令和3年度：92.5億円）の増加などにより、経常利益は年度計画上の目標を上回った。  (経営企画課)</p>	III	IV	
数値	<p>人件費（薬学部除く） 175億円（令和5年度） ※経営改善計画（平成29年10月策定）を実施しない場合、178.9億円となる見込</p>	172.2億円	172.2億円  (関連事項 イa)			